

7月22日(水)

御巢鷹

日記

▶30◀

御巢鷹の尾根登山道中腹の遺族休憩所に今月、520体の仏像が並んだ。埼玉県の負債から贈られ慰霊の園に展示していたもので、展示棟の改修工事に伴い尾根に移された。大きさも表情もさまざまな仏像が手を合わせ、520人のみ霊に祈りをささげている。

山に“染みこむ”祈り

きょうの尾根にも、祈りの声が響き渡った。曹洞宗県宗務所長で仁叟寺(高崎市吉井町)の渡辺啓司住職(64)の呼び掛けで、僧侶ら15人が、事故から30年の節目の年に慰霊登山法要を営んだ。

連日火葬が行われた市斎場に交代で出向き、読経し続けた。宗派を超えた奉仕だった。竹市さんが住職を務める光徳寺(同市藤岡)は、遺体安置所にもなった。

2人の住職は30年前、四十九日に合わせ、共に尾根を目指した。まだ生々しい爪痕の残る道なき道を約4時間、靴と作務衣の裾を水浸しにして登った。焼けて真っ黒になった山に、読経と木魚の音が“染みこむ”ような気がしたという。

「きょうもそんな気持ちになった」。緑の生い茂る30年後の尾根で、渡辺さんは継承への思いを口にした。自然は元に戻っても、記憶は残さないといいな。きょう登った若い僧侶が、現場で何か感じてくれたらいい」

(鶴田理紗)

随時掲載

御巢鷹日記～30～

僧侶ら15人慰霊登山法要 山に“染みこむ”祈り

御巢鷹の尾根登山道中腹の遺族休憩所に今月、520体の仏像が並んだ。埼玉県の負債から贈られ慰霊の園に展示していたもので、展示棟の改修工事に伴い尾根に移された。大きさも表情もさまざまな仏像が手を合わせ、520人のみ霊に祈りをささげている。

きょうの尾根にも、祈りの声が響き渡った。曹洞宗県宗務所長で仁叟寺(高崎市吉井町)の渡辺啓司住職(64)の呼び掛けで、僧侶ら15人が、事故から30年の節目の年に慰霊登山法要を営んだ。

「あの夏のことは毎年必ず思い出す」と話すのは藤岡市仏教会の竹市文光会長(69)。同会の僧侶は事故当時、連日火葬が行われた市斎場に交代で出向き、読経し続けた。宗派

を超えた奉仕だった。竹市さんが住職を務める光徳寺（同市藤岡）は、遺体安置所にもなった。

2人の住職は30年前、四十九日に合わせて共に尾根を目指した。まだ生々しい爪痕の残る道なき道を約4時間、靴と作務衣の裾を水浸しにして登った。焼けて真っ黒になった山に読経と木魚の音が“染みこむ”ような気がしたという。

「きょうもそんな気持ちになった」。緑の生い茂る30年後の尾根で、渡辺さんは継承への思いを口にした。「自然は元に戻っても、記憶は残さないといけない。きょう登った若い僧侶が、現場で何かかんじてくれたらいい」